

第6学年 算数科学習指導案

日時 平成16年11月30日(火)第3校時
授業者 グリーンコース 2F
ブルーコース 3F6年組
オレンジコース 3F6年組

1, 単元名 分数と整数のかけ算・わり算

2, 単元の目標

- (1) 分数に整数をかけたり、分数を整数で割ったりする計算の仕方を理解し、計算の能力をいっそう伸ばそうとする意欲を持つ。〈関心・意欲〉
- (2) 分数に整数をかける乗法の意味と計算原理や方法を理解し、立式したり計算したりすることができる。
〈知識・理解〉〈表現・処理〉
- (3) 分数を整数でわる除法の意味や計算原理や方法を理解し、立式したり計算したりすることができる。
〈知識・理解〉〈表現・処理〉
- (4) 分数の乗法や除法の途中で約分する方法を理解し、計算することができる。
〈知識・理解〉〈表現・処理〉

3, 新宮小研究主題との関わり

基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ態度を育てる授業作り

～算数科の指導～

(1) 前回までの公開授業からの課題

課題の内容や、提示の仕方について

習熟度別少人数学習・・・出会うもの(本時の問題)と出口(本時のまとめ)はどのコースも同じである。しかし出合わせ方(課題の提示の仕方、解決の手だて)がコースによって違う。

課題提示は、コースによって時間差ができるのは当然である。

オレンジコースは、課題提示までに時間がかかる。(どの子にも問題の意味をわからせるために。)

ただし丁寧に時間をかけるとしても授業開始10分以内で行うのが目安。

問題に出会ったらすぐに問題把握を始めさせる。《わ》《き》《式》

課題を出すとき、教師から一方的に与えるのではなく児童のつぶやきややりとりの中から出せるとよい。

課題追求のための指導援助の仕方について

課題追求のための手だての与え方：オレンジは1つ、ブルー・グリーンは複数のもの。
つまづいている子への配慮＝ヒントコーナー、ヒントカードを生かす。
ペア学習は視点を決めて交流させる。早くできた児童への指示も必要。
課題追求の段階での多様な考えを整理して引き出す。＝意図的指名、「はかせどん」に立ち返る。
力試しまでの時間の確保＝時間配分が必要。

(2) 研究の具体的方途

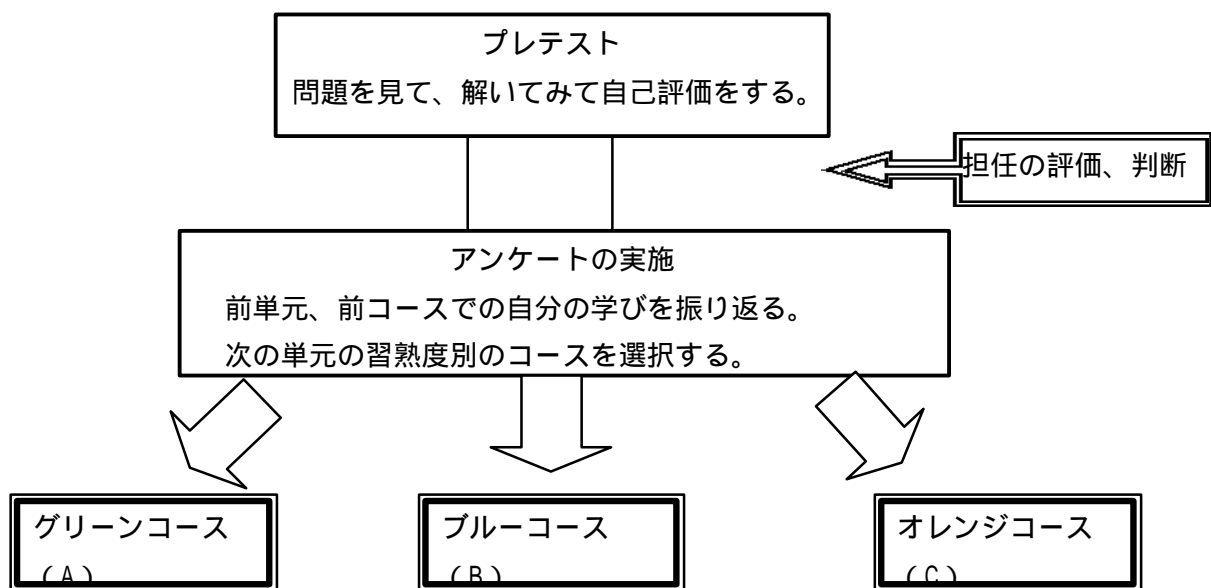
基礎基本（＝評価規準）を明らかにした指導計画の作成 別紙「単元の指導計画」

指導援助のあり方

(ア) 個に応じた指導の工夫 『習熟度別少人数グループ指導の取り組み』

ねらい コース別グループの指導の取り組みのよさは、まず算数の学力において子どもたちの持つつまづきや思考の道筋などの過程が予想しやすく、またその指導の手だても具体的に示しやすいことである。次に、コース別の学習で学力差のあまりない集団で学ぶことにより、どの児童も自分にあった速さであせらず安心して学ぶことができると考える。また、2クラスをコース別に3つに分けることで、より自分が学びやすいコースを選択することができるようにした。

コースの分け方 単元前に単元に関わる内容のプレテストを行い自分の解き方を試してみても実態をつかむ。個々のコース選択の希望を優先するが、担任の考えとずれがある場合には個別に話し合いを持ち担任が指導、決定する。1単元通して同じコースで学ぶが、途中での変更も可能。また次の単元ではコース選択の希望をあらたにとる。



コース担当、コースの内容と子どもの実態

コースと担当	コースの内容	子どもの実態
グリーンコース 担当：	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着 ・自分の考えを多様に持ち、みんなにわかりやすく説明する。 ・より発展的な問題に挑戦する。 	<p>先生の指示にさっと反応できる。</p> <p>計算など速く正確にできるので、計算での自信を持っている。</p> <p>考えを多様にもてる。</p> <p>自分の考えを相手のわかりやすく説明する力が弱い。</p>
ブルーコース 担当：	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着 ・考えを持ち、自分なりの方法でノートに書いたり説明する。 ・いくつかの方法をみんなで考えながらもっとも有効な考えをつかむ。 	<p>計算などは正しくできる。</p> <p>うっかりミスや読み間違いなどの小さなミスをすることがある。</p> <p>自分の考えを持つことはできるが、みんなにわかるように進んで話すことができない子どもが多い。</p>
オレンジコース 担当：	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着 ・具体的で視覚的な問題把握のしかた。 ・よりシンプルで印象づける考え方を思いに残すようにする。 ・いつでも既習学習のつまずきに立ち戻って、ゆっくり間違えながら進む。 	<p>オレンジコースであせらずゆっくりわかるまで学ぼうとする気持ちが強く、学習に取り組む姿勢がよくなってきた。</p> <p>理解力、計算力に劣る面がある。</p> <p>先生の指示にさっと反応できず、問題や課題を書くのに時間がかかる児童がいる。</p> <p>自分の考えに自信を持てず、語彙力・発言力が弱い。</p>

(イ) 授業のねらい、指導の手だての明確化

コース別学習の指導を各コースごとに明確にした。特に課題の提示の仕方や課題追求の手だてにおいてコースによる違いをはっきりさせる。その具体的な方法は、児童のコース別の実態に応じて行うが、大まかな方針は次の様に考えた。

【方針1】 出会うもの（問題）は同じ、出口（まとめ）も同じである。しかし出会わせ方が違う。

【方針2】 課題提示までの時間配分は、グリーン：5分、ブルー：10分、オレンジ：15分の予定。

グリーンコース (21)人	<p>問題提示の後、全体で見通しをもつ。見通しは深入りせず、ある程度の考えがもてれば、そこから課題を提示する。</p> <p>課題追求に費やす時間を多くし、1つの考え方だけではなく、2つ3つと考える説明することに重点を置き、分かりやすい説明を考える</p> <p>練習問題だけでなく、補充問題・発展問題を用意し、自信をつけさせる</p>
ブルーコース (20)人	<p>問題を具体的・視覚的に把握するための工夫をする。(絵や図)</p> <p>前時までの学習を掲示として残しておく。</p> <p>自分なりの考えを一つ持ち、追求していける場を作る。</p> <p>交流の中で自分と違ったやり方にふれさせる。(2つ以上の考えに触れる。)</p> <p>練習問題で計算力の定着をさせる。</p>

<p>オレンジコース</p> <p>(20)人</p>	<p>問題を具体的・視覚的に把握するために具体物を使うなどの工夫をする。(絵、図、実物など。)</p> <p>問題によっては、課題解決のヒントを含む問題(ミニクエスチョン=既習事項)を始めにトライしてから問題に入る(スモールステップの用意)。これにより課題解決への武器を持つ。</p> <p>手を動かして考えることができるような工夫。具体物の提示。</p> <p>前時までの学習を明示してすぐ思い出せるようにしておく。</p> <p>考えたことをわかりやすくまとめる。公式化する。</p> <p>似たような問題を再度解くことで、自信をつけさせる。(練習問題のうちの一つ)</p>
-----------------------------	---

共通の指導事項

- ・ 授業の1時間の思考の流れの共通を図る。「問題」「見通し」「課題」「考え」「交流」「まとめ」「力試し」
- ・ 「話す・聞く」の指導
- ・ 自己評価カードの記入
- ・ ミニ先生の位置づけ
- ・ どのコースにも同じ出題プリントを配る。
- ・ まとめは同じ掲示として残す。各コース独自の掲示もある。

<自己評価カード>

<オレンジコース ミニクエスチョン>

算数学習評価カード(コース)					
()年()組 名前()					
単元名【 】					
やる気 :やる気を持って学習できたか					
課題 :今日の課題はクリアできたか					
考え発言 :自分の考えを持って発言できたか					
ノート:わかりやすくしかりノートに書けたか					
評価=A B Cで自己評価しよう					
時間	やる気	課題	考え・発言	ノート	先生
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
この単元を終えて学んだこと、できるようになったこと					

【今日のミニクエスチョン】

次の面積を、2人で等分しましょう。

次の面積を、3人で等分しましょう。

次の面積を、6人で等分しましょう。

<ヒントカード>

(ブルー)

分数の性質

$\frac{4}{5}$	$\frac{4 \times 3}{5 \times 3}$	$\frac{12}{15}$
---------------	---------------------------------	-----------------

(オレンジ)